

NEWSLETTER

No. 9

岐阜大学国際交流室 1990年7月10日発行

1990年は Global Change のとき

岐阜大学長 加藤 晃

かの忌わしい戦争が終わって今年は45年、1990年は今世紀末10年間の始まりの年であるが、この時期世界は大きく変化している。

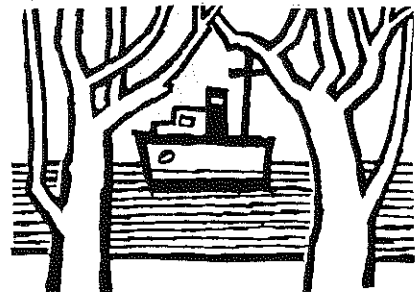
ベルリンの壁の撤去から、雪崩のように始まった東欧諸国の社会経済体制の変化、そして米ソの核軍縮を中心にした平和共存への歩み、南アフリカにおけるアパルトヘイトの解決への双方の歩み寄り、そしてカンボジアの和平交渉と、世界は平和への道を大きく歩み始めている。

これらの激的な変革や市民的な活動は、急速に発達した新しいメディアを通して、われわれの茶の間にも否応なしに飛び込んでくる。同時にまた、日米構造協議のような国際間にわたる摩擦も地球的な規模で論じられるようになってきた。

こう見てくると、1990年は社会体制、経済通商政策、人種問題を通して大きな変化の年、いってみればグローバルチェンジの年である。このグローバルチェンジは、経済社会だけの変化ではなく、自然環境の点でもグローバルな対応が迫られている。フロンガス使用に伴うオゾン層の破壊、CO₂の増加が主原因とみられる地球温暖化現象、そしてSO_xやNO_xなどに起因する酸性雨の問題などは、一国の対応だけでは何とも致し方ない。正に地球規模での対応が求められている環境問題である。この点でもグローバルチェンジをしなければならない。あるいは、グローバルチェンジはもう始まっているともいえる時にわれわれは立っている。

グローバルチェンジの時代には、国際間での理解、相互愛、信頼、意志疎通、技術交流協力がなければ、その変化に十分対応し、機能することは困難である。

グローバルチェンジの激的な変革に対して遅々とした感があるが、国際交流の一步一步が、その変化を安定した形で良い方向に導く力になると信じている。その側面からみれば、わが岐阜大学の国際交流室も、百里の道も一歩からのささやかな努力とそれに見合った効果を発揮しているわけである。いや、鈴木委員長、藤井室長以下スタッフ全員で、大へんな仕事をしていると申し上げた方が当たっているのかも知れない。今後ともご健闘を願って筆を擱きたい。



PTP (person to person) クラスインストラクターからの一言

ソーイングクラス, ただいま休講中

江口 史美

と、言う訳で、今年度は日本語クラス担当となりましたが、5年間のクラスで心に残っている人のことをご紹介します。

彼女はブラジルの日系三世で、ゆかたを丁寧に縫いとげ、着付けも納得できるまで繰り返し練習してマスターしました。(写真はその時のものです)その上、再度縫う時の為に、作り方のコピーもほしいという熱心さには、感心しました。彼女は日本人とブラジル人の顔を併せ持っていたので時々戸惑いました。日本人の顔の時は、日本の文化に関心があるのは、育った国は違っても、やはり日本人の心を持っているからと思うとうれしくなったり、ブラジル人の顔が出た時は、育った環境は、その人の性格を大きく左右するものだと思ったり、とにかく、混乱の半年間でした。

彼女以外の留学生も、とても熱心で、私の日頃の生活態度を大いに反省しました。

日本語クラスは、私にとって、抜き打ちテストを受けているようで、冷や汗の連続ですが今まで、何気なく使っていた言葉を意識するようになってきました。そして日本語のむずかしさを改めて感じています。



大橋 八重子

長良川沿いの新緑を楽しみながら、きょうも大学へ向けて車を走らせています。週一度のPTPクラスを受け持ち、そして“ことばの勉強会”を受講しています。PTPクラスは六年目になりますが、自分の力不足を毎回感じています。もう少しわかりやすい上手な説明ができないものかと、しばしば悩むこともあります。その反面意味をよく理解して正しい文章を書いたり話してくれた時は大変うれしいものです。先月ブラジルのマリオから手紙がきました。彼はこちらにいる時、日本語が大変上手で読み書きもよくできていました。でも手紙によると、帰国後日本語を使う機会がなくてどんどん忘れていく、とほとんど平仮名で書いてありました。漢字をあんなによく知っていたのにと思うと残念です。帰国されても日本のことばを忘れないように少しでも使う機会を持つことができると願っています。



純日本風国際交流

脇田 維久子

この広い地球上のあちこちでいろんな人が何をどのように考えているのか、それぞれ自分と同じ時代を生きている姿を一望できたらなどと子供の頃よく考えたものです。

今や情報・通信機器の発達や衛星放送のおかげで居ながらにして世界各国のたいいの出来事がわかる時代になりましたので、そんな私にはいろいろな事を見たり聞いたりできることが何倍もの人生を経験して



いるかのような気分さえなるのです。そこへある時、ふとしたきっかけで国際交流室での日本語のボランティア活動のお話をいただきました。私のお手伝い活動は、交流室発足当初からずっと続いているわけで思い出せばその間ほんとうに数多くの出会いがありました。

私は常に健全な食生活を第1のモットーとして活動しているのですが、心暖まる出会いと触れ合いはそれにまさしく匹敵の価値あるもので、ほんとうに幸運だったと思います。数多くの外国からの留学生に思いかけない国内での出会いに加えこれまた幸いにも自分の足でヨーロッパ、アメリカ、カナダ、オーストラリア、東南アジアの国々を訪れることができました。近年は毎年夏、冬と出かけるチャンスにも恵まれています。いろいろな国の皆さんとの交流を通して様々な人生を直接に勉強が出来、また日本国内・国外における自分のあり方をもう一度違った角度から見直すことの素晴らしさを痛感しています。そういう私は至って日本人的な人間なので温泉で鋭気を養い、健康食とスポーツで体力を向上させるよう努力しています。次の活動的な旅行に備え、また毎日の仕事に積極的に向かって行けるよう心身共にリフレッシュするのにも余念がありません。また、留学生の友達ともいなかのお祭りを見たり、日本そば・うどんを食べながらいろいろ語り合ったりテニスをしたりまた時には両親を交えこれまた活きた日本史を探訪します。

時には歌舞伎や文楽の世界にまで足をのばし、落ち着いて考える時には私は私でしかないのを悟り私なりの方法で多くの人々と心の交流をしています。今までの数多い出会いを思い出しながら、そしてこんな私ですが岐阜を離れた今も変わらぬ交友を続けていただいている友達から学んだことを最後に加えておきます。

- ①自分の確かな足どりで着実に人生を歩く姿勢
- ②ユーモアのセンス
- ③しっかりとした独立心
- ④いつも向学心を持った心豊かな生活ぶり

例えば外国で出会った大学の先生やホテルのマネージャーそしてその国やその国以外から働きに来ているタクシートの運転手さん達などともよく話しをします。

彼等と話していると、自分の国と文化にも誇りを持ち、政治、経済などに至るまでユーモアを交じえて話せるセンスを持ち合わせている人が多く、しっかりとした手助けを感じさせます。

国際交流から学ぶことができるものはまだまだたくさんあります。これからもこの生きた勉強を楽しく学ぶ人生学と考え、前向きにがんばりたい（この言葉は留学生の最も好きな言葉ですね）と思っています。またヨーロッパを訪ねた時、ドイツのアウトバーンを走りながらテープを使って落語の名人五代目古今亭志ん生の味わい深い語りにも人生の機微を味わい、空にその夢を描くのです。

いつも冗談で言っているのですが、そしてその夢のひとつに将来「国際老人会館」が設立され、そこでなつかしい顔ぶれが揃うかも……こんな楽しいアイデアの実現に向けて私は一步一步進みます。また明日はどんな出会いがあるか、心を豊かに保ち、着実に歩いて行きたいと思っています。

私の心の旅

米増 寿子

まるで私の孫かと思う位の各国留学生達と混ざっていると、自分が映画の一シーンに入りこんだような気がする。

どうして？ 五十年前、女学生の頃は地理の授業中、芭蕉の奥の細道を辿ってみたり、万葉集詳解（鴻巣盛厚著）を、一頁ずつめくったことを思えばどこでどう変わったのだろうか。

坂本九ちゃんがアメリカで、全部日本語で通したことをさもヤマトダマシイであるかのように報道され、啞然として私は不満だった。

こんなに広い世界があるのに、それを無視して錯覚までしてきた日本人。外地生まれの私には何とも納得できなかった。とりあえず、英語を勉強しなくてはと決心したものだ。

以来、好奇心のおもむくまま暇と金の都合をつけて外国へ旅立ったが、今、独居生活をしていて、旅は私の心の財産、交流室での奉仕は大切な心の支えになっている。



ブラジルでの体験

斎藤 朋子

Brasilに着いて、私は、自分がBrasilについて何も知らなかったなと思いました。そして、日本人の多くが余り知らないのではないかと思います。私が通っている大学 Unicamp は、Brasilでも1、2を争う大学で、皆よく勉強するし、大学での勉強をととても喜んでしているようです。そして大学生達は、お祭り騒ぎが好きで、週末にはだいたい Festa があります。水曜・金曜に夜に Festa をして、土・日は実家に帰ります。卒業式もまるで Festa のようでした。Campinas の街は岐阜の街に似ています。Brasil の友達がよく「外国人は Brasil というと、サッカーとコーヒーとアマゾン川とカーニバルとしか考えない。今でも街中をインディオが歩いていると思っている。」と言いますが、そうかも知れません。私にしても Brasil というと、借金を抱えている国、発展途上国というイメージが強くていろいろな心配もしていました。日本の友達で私に「Brasilに行ったら川で洗濯するの?」ときいた人もいます。Brasil はとても広いのです。地域によってずいぶん違います。São Paulo などは大都会です。

国際化が叫ばれる今、先進国と呼ばれる国に限らず、どの国についても確かなイメージを持ちたいものだと思います。



ところで私は大学では、半期ポルトガル語をやりました。ついで頃まだあまり言葉がわからなかった私はいかに早くポルトガル語を修得するかが課題でした。幸い私は、23人のブラジル人の女の子と一緒に下宿していたため彼女達との会話はとても勉強になりました。言葉を覚えるには使うのが一番です。だから言葉が分からなくても恐れず外にでて、街でも大学でもやたら人に話しかけていましたが、おかげで友達もたくさん出来たし、彼らから学んだこともたくさんありとても良かったと思っています。それに留学を楽しくしてくれるのはなんといってもやはり友人だと思います。

私がやろうと考えていた教育学に関しては、こちらの小・中学校の授業を見せてもらいました。学校全体の雰囲気あまりにも日本と違うので驚きましたが、学校というのは国の事情を反映するものですね。

先日夏休みがありました。友達の家に行った時は、Brasil の家庭の状況をよく知ることが出来て良かったです。そして、北の方に長旅をしたときは貧しい個人旅行だったため危険ではありましたが、Brasil の国民の大半を占める貧しい人々と直に触れ合うことが出来たし今まで知らなかった Brasil を知ることができて本当におもしろい旅になりました。São Paulo と Nordeste は、日本とブラジルくらい違っていて Brasil の広さを改めて感じました。長い夏休みはとても有意義なものとなり、大学での勉強以上にためになったように思います。

旅のおかげもあり、ポルトガル語も以前に比べ上達し、益々楽しくなってきました。それを活かして新学期もがんばります。

(教育学部 教育学科4年)

帰 国 す る 前

ランサン・ソーワンナ

1988年の10月に日本に来て来月帰国する予定です。日本に来る前に私がタイで働いていた学校の校長先生は私に質問して「どうして日本に行きたい、修士号をもらえないし、一年半は長いよ、時間がもったいない。」その時私は前後のことをよく考えていました。ですけれども今はここで座って話しています。

1年4か月13日たった今、だれから何をもらったか、時間がもったいないかどうかを考えています。まずタイで日本からの飛行機の切符をもらいました。岐阜大学で先生がたから日本語を教えてくださいました。心からどうもありがとうございます。日本語を話せることで私の生活は豊かになると思います。

いろいろな学校を訪問しまして、私を招いてくれた学校があるし、私が頼んで観察させてもらった学校もあるし、全部で15校ぐらいです。そこで国のことを交換しまして、私はいつも子供たちにタイについての質問をされました。

日本の教育の問題を明示する質問は「タイには建物がありますか。」「タイには車がありますか。」「仕事をする時は象に乗りますか。」

日本の子供たちは私の国について、どんなイメージをもっているか分かりません。日本は子供たちに私の国について、どんなことを教えているか分かりません。日本のマスコミはほとんどいろんな国の悪い所を広めます。どうしてすばらしい所を教えないか分かりません。わたしがよく分かっていることは日本はまだアジアの国と発展途上国を見下げることです。こんなことを感じる人は私だけでなく、昨年の夏北海道でホームステイをしましたが、そのプログラムに参加した外国人たちも

こんなことを感じたそうでした。

北海道でのホームステイプログラムによって、日本の家庭と日本の生活についての経験以外に私は30ヶ国ぐらいからの外国人たちと日本の教育についてセミナーをしました。でも一番印象的なことはお父さんとお母さんから物もらったことです。

お母さんからの物はホームステイで毎日使ったはしで、お父さんからもらった物は俳句と涙でした。

私は旅行が大好きなので友達とたくさん旅行をしました。

どこでも日本の自然は本当に美しく、山には木がいっぱいあります。森の中にも木が生茂げっています。

反対にタイの木がだんだんなくなって、森は砂漠になって、山は剃った頭のようになっています。

昨年タイではひどい洪水があったんです。

そのげんいんはある利己的なタイ人と日本のお金の影響だと思えます。

一年かん以上の間に得た知識と経験は修士号より貴重な気がします。今は私の生徒が私を待っています。国へ帰ったら校長先生の質問に答えます。生徒たちにも日本について本当のことを教えるつもりです。世界平和のために人間の大切なことも生徒たちに教えたい。

それは発展途上国を見下げないこと、

弱みに付込まないこと、

人権を尊重すること、

そうすると私たちの子孫はこの世界で幸せに住めると思えます。

※ 90年2月のスピーチテストより

教育学部 教員研修留学生（指導教官 小川教授）



1990年 岐阜大学サマースクールスケジュール

月	火	水	木	金	土	日
6/4 Rund 8週間 コースガイダンス 10:00~12:00 第6集会室 [廣田・藤井・佐藤 留学生係]	6/5 日本語授業 <及川> 第5集会室	6/6 日本語授業 <中島> 第5集会室	6/7 日本語授業 <河地・中島> 第5集会室 WELCOME PARTY (学長主催) 18:00~20:00 柳戸会館 [庶務・学生部]	6/8 日本語授業 <後藤> 第5集会室	6/9 Optional Tour Yacht Sailing →	6/10
6/11 日本語授業 <加藤> 第5集会室	6/12 日本語授業 <及川> 第5集会室	6/13 日本語授業 <中島> 第5集会室	6/14 日本語授業 <河地・中島> 第5集会室	6/15 日本語授業 <後藤> 第5集会室	6/16 休み	6/17 休み
6/18 3週間コースガイダンス 10:00~12:00 第5集会室 [吉田・廣田 宮田・河合]	6/19 岐阜と日本の地理<富樫幸一助教授> 10:00~12:00 第5集会室	6/20 世阿弥と能について<西澤康夫教授> 10:00~12:00 第1集会室	6/21 岐阜県の伝統産業<講師・県立博物館川瀬晋忠学芸主事> 10:00~12:00 第1集会室	6/22 アサヒビール研修 12:00 集合 12:30 出発 14:00~15:30見学 17:00 帰校 [河合・松原]	6/23 休み Midsummer Party at Bill's house (12:00pm~12:00pm) →	6/24 休み
6/25 日本の生活について<三浦陽一助教授> 10:00~12:00 第5集会室	6/26 乗鞍研修(平湯泊) 8:30 集合 9:00 出発 [宮田・松浦 塚本]	6/27 上高地・高山(高山泊) [宮田・松浦 塚本]	6/28 高山→郡上八幡→岐阜 17:30 帰校 [宮田・松浦 塚本]	6/29 休み	6/30 休み	7/1 休み
7/2 日本美術について<野村幸弘講師> 10:00~12:00 第5集会室	7/3 日本の政治について<水崎節文教授> 10:00~12:00 第5集会室	7/4 ヤマザキマザック研修 3:30 集合 9:00 出発 17:30 帰校 [藤井・氏次]	7/5 最終討論会<三浦陽一助教授> 10:00~12:00 第5集会室	7/6 休み	7/7 休み	7/8 休み
7/9 日本語授業<加藤> 第5集会室	7/10 日本語授業<及川> 第5集会室	7/11 日本語授業<中島> 第5集会室	7/12 日本語授業<河地・中島> 第5集会室	7/13 日本語授業<後藤> 第5集会室	7/14 休み	7/15 休み
7/16 日本語授業<加藤> 国際交流室	7/17 日本語授業<及川> 国際交流室	7/18 日本語授業<中島> 国際交流室	7/19 日本語授業<河地・中島> 国際交流室	7/20 日本語授業<後藤> 国際交流室	7/21 休み	7/22 休み
7/23 日本語授業<加藤> 国際交流室	7/24 日本語授業<及川> 国際交流室	7/25 日本語授業<中島> 国際交流室	7/26 日本語授業<河地・中島> 国際交流室	7/27 FAREWELL PARTY 18:00~20:00 柳戸会館 [クラブ・交流室]	7/28 休み Rund 8週間コース 終了	7/29 休み

時間割 1990年度 前期 (平成2年4月9日～平成2年9月21日)

	月	火	水	木	金
9:10					
10:40	1 ・日本語クラス 12 河地 ・PTPクラス 渡辺-クバタ (10:00～12:00)	・日本語クラス 15 後藤	・日本語クラス 18 加藤 ・PTPクラス 大橋-リディア	・PTPクラス 六郷-タロ	・日本語クラス 20 及川 ・PTPクラス 小野木-ノーラ (9:30～11:00)
10:50	2 ・日本語クラス 13 河地 ・日本語初級クラス 及川 ・日本語初級クラス (医) 後藤 (10:30～12:00)	・日本語クラス 16 後藤	・生け花クラス 田中(亨) ・言葉の勉強会	・日本語クラス 19 河地 ・日本語初級クラス (医) 後藤 (10:30～12:00)	・日本語クラス 21 及川 ・PTPクラス 毛利-ケン (10:00～12:30) ・PTPクラス 吉田-照子 ・PTPクラス 米増-呉 (11:00～12:30)
12:20	3				☆英会話クラス (12:30～13:30)
13:30	4 ・日本語クラス 14 加藤 ・日本語中級クラス (医) 中島 (13:00～14:30)	・日本語クラス 17 中島 ・PTPクラス 西村-レイ	・日本語初級クラス 及川 ・PTPクラス 大野-マーシャ ・PTPクラス 田中-サントソ	・日本語中級クラス(医) 中島(13:00～14:30) ・PTPクラス 加藤-エミ ・PTPクラス 大野-アグン ・PTPクラス 伊藤-アニス	・日本語クラス 22 加藤 ・PTPクラス 梶田- パリラット ・PTPクラス 河野-ベリヤ ・PTPクラス 江口- エリーザ ・PTPクラス 米増-季
15:00	5	・PTPクラス 松井-モニカ			
15:10					
16:40					

岐阜大学国際交流室員名簿

(任期 '90. 4. 1 ～'91. 3. 31)

所属	職名	氏名	備考
工学部	教授	藤井 洋	国際交流室長
"	助教授	宮田 幹二	広報担当
"	助手	松本 忠博	学生対応担当
教育学部	助教授	廣田 則夫	日本語教育担当
"	助手	佐藤 節子	ホームステイ担当
医学部	教授	江崎 孝行	日本語教育 (医学部) 担当
"	講師	前田 学	"
農学部	教授	堀内 孝次	渉外担当
"	"	河合 啓一	会計担当
教養部	助教授	吉田 稔	国際理解度担当
"	"	松尾 誠之	サマースクール担当
短期大学部	助教授	松浦 晃次	外国語教育担当
"	"	藤田 一郎	広報担当

<日本語非常勤講師>

河地 忍
加藤 由紀子
及川 由利
後藤 規子
中島 智己

<国際交流室事務員>

森 瀬 純子
後藤 桂
松井 浩子

平成元年度 国際交流室 行事報告

- 4月10日 交流室前期授業ガイダンス インストラクターオリエンテーション
11日 前期日本語授業スタート
5月19日 インストラクター交流会 ランチョンパーティー
6月5日 ルンド大学サマースクールガイダンス
9日 ルンド大学 Welcome Party
7月7日 第1回国際理解教育の集い(マッツさん, ソニアさん)
28日 ルンド大学 Farewell Party
9月21日 第2回国際理解教育の集い(マイケルさん, 金さん)
22日 交流室前期日本語授業終了
10月9日 交流室後期日本語授業ガイダンス
10日 後期日本語授業スタート
16日 '90 ルンドホームステイファミリーとの懇談会 日本語学力テスト
22日 第4回国際運動会
26日 インストラクターとの昼食会
12月5日 第3回国際理解教育の集い(カルロスさん, レノーラさん)
9日 留学生との討論会
1月20日 第4回国際日本語スピーチ大会
2月16日 交流室後期日本語授業終了

平成2年度 国際交流室 行事予定

1990年

- 4月9日 '90年前期ガイダンス インストラクターオリエンテーション
10日 前期日本語授業 開始
5月25日 インストラクター春の交流会
6月2日 ルンド大学一行来岐(ホームステイ開始)
4日 岐阜大学サマースクールスタート(別紙参照)
7月 '90年第1回国際理解教育の集い(講演者: 林 哲録, CHOON KOK KEONG)
28日 サマースクール終了
9月21日 前期日本語授業 終了
10月8日 '90年後期ガイダンス インストラクターオリエンテーション
9日 後期日本語授業 開始
'90年第2回国際理解教育の集い(講演者 未定)
インストラクター秋の交流会
第5回国際運動会
12月 '90年第3回国際理解教育の集い(講演者 未定)
忘年会

1991年

- 1月 第4回国際日本語スピーチ大会
- 2月22日 後期日本語授業 終了
- 3月 卒業及び帰国留学生歓送会

1990年の国際交流室の行事予定は以上のとおりです。(日付等若干の変更は予想されますが…)皆さんの積極的な参加をお待ちしております。

尚、NEWS LETTER 編集局では、原稿を募集しています。言いたいこと、聞きたいこと、要望、不満、英語、日本語……何でもOKです。もちろん匿名でも可！ 下記までドンドンお寄せ下さい。

〒501-11 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学国際交流室 NEWS LETTER 係宛

◀寄附金のお礼▶

前年度、国際ソロプチミスト・岐阜より、国際交流室に留学生のための寄附金をいただきました。この場を借りてお礼を述べるとともに、御報告しておきます。

▶お詫び◀

№8のP5 「阪本知恵」さんは「阪本千穂」さんの誤りでした。お詫びして訂正します。

●編集後記

ほたる狩りにひとときの清涼感を味わう季節もそろそろ終わりとなり、蒸し暑い日々が続くようになりました。国際交流室では新しく加わったメンバーとともに、今年最初の大きな行事として、ルンド大学からの5名の短期留学生を迎えたサマースクールを進めているところです。日本人のへたな英語に比べて、彼らが短期間に学んだ日本語のなんと流暢なことか。あらためて、日頃の勉強不足を痛感している今日この頃です。(I. F.)

発行 岐阜大学国際交流室
〒501-11 岐阜市柳戸1-1
電話 (0582) 30-1111
内線2380/2381
編集 宮田幹二・中島智己